第３回　火山検討会　議事録

１．　開催日時：平成１８年１２月２０日（水）１０：００～１２：００

２．　開催場所：日本電気協会　Ｂ会議室

３．　出席者：(順不同，敬称略)

- □　委　員：衣笠主査（東京工業大学），中田副主査（東京大学地震研），
- □　山崎（首都大学東京）、四家（北海道電力）、武田（東京電力），
- □　橋本（東北電力）、片川（北陸電力）、金谷（関西電力）、川本(中国電力)、田中（九州電力）、伝法谷（電源開発）
- □　岡島（ﾘｻｲｸﾙ燃料貯蔵）、三浦・土志田(電中研)、小林（日本原燃）
- □　（計 15 名）
- □　代理出席：今井（中部電力・仲田代理）、西坂（四国電力・大野代理）
  増田（日本原子力発電・北川代理）　（計 3 名）
- □　常時参加者：内山（ＪＮＥＳ）　（計１名）
- □　オブザーバ：小鶴(九州電)、上田(電中研)、花田(原技協)、　（計 3 名）
- □　事務局：荒木（日本電気協会）　（計１名）

４．　配布資料

資料 No.3-1　　第２回火山検討会　議事録（案）
資料 No.3-2　　JEAG 火山影響評価指針(仮称)　(案)

５．　議事

（１）出席者及び前回議事録（案）の確認

事務局より、本日の代理出席者は３名であり、代理出席者については規約に基づき衣笠主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は１８名であり、規約上、決議に際して求められる委員総数の２／３以上の出席であることが確認された。

また、事務局より前回議事録（案）の紹介を行い、挙手による採決の結果、出席者全員の賛成で了承された。

（２）JEAG 火山影響評価指針(仮称) 目次及び内容(案)

資料 No.3-2 及び参考資料「日本列島の第四紀火山に関する特性整理(第１報)」により JEAG 火山影響評価指針(仮称) (案)について説明が行われ審議した。各委員が確認し、コメント等があれば幹事に連絡することとした。

主なコメントを以下に示す。

a. 調査対象は、敷地から 150km という記載をやめたが、調査全体の流れや各調査の精粗等の重み付けが明瞭でない。

→第四紀に活動した火山のうちから、今後の活動の可能性があるか否か判断し、調査対象とすべき火山現象ごとに調査範囲を定める。今後、フローチャートを作成するなどして明確にする。

b. 従来、火山現象に対して、安全審査ではどのように扱われてきたのか。

→立地指針で考慮すべき自然現象の一つとして扱われていた。

c. 1.3 原子力発電所への影響評価の基本方針で、立地指針と安全設計審査指針を引用した部分が分かるよう、きちんと引用すること。

d. 上記の解説で施設の安全性に大きな影響をあたえるとあるが、表現の整理が必要と考える。

e. 2.1.1.1 調査対象とすべき火山を第四紀の火山としていることは適切か。

→ 日本列島特有の現象として理由がつけば、第四紀で良いと考える。

f. 活動期間や活動休止期間の検討にあたっては，火山の活動年代値の精度は時代が古くなるほど悪くなることに留意すること。また，大噴火等により噴出物自体が失われてしまうこともあることに留意すること。

g. 2.1.1.2 調査対象の火山現象での空気振動は、原子力発電所のような堅硬な施設で安全性に影響が及ぶような影響は考えられないので、本文から解説に移すこと。

h. 2.1.1.2 調査対象の火山現象で、新火口の形成を含めるよう見直すこと。

i.2.1.2 調査手法(2)地形調査で空中写真等の判読は、空中写真の判読等に修正のこと。

j. 2.2.1.1 解説の噴火する可能性があるか否か判断する場合の基本的な考え方の記載は、本文に移すこと。

k. 2.2.1.2 解説で，噴火する可能性がある火山でも，活動履歴の検討から火山現象毎に発生する可能性を検討できるような記載とすること。

l. 2.2.2.詳細設計段階において施設への影響を評価するための検討事項の解説で記載する項目は、2.1.1.2 調査対象の火山現象とした項目との整合を図ること。

m. 解表 2.1.1.3-1 で調査対象とすべき火山現象の噴出中心の位置と敷地との関係の検討にあたっては、各現象での日本国内での既往最大を参照とすること。

（3）その他

次回検討会は２月中旬に、次々回は４月に行うこととした。

以　上